編集後記

■あっという間に夏から秋に変わってきました。お変わりありませんでしょうか。大会間際になってしまいましたが，22巻2号をお届けいたします。今号は名古屋大会の情報だけでなく，内容がとても濃いものになっております。

■シアノバクテリアの概日リズム研究の若手のホープとして，非常に重要な成果をあげてこられた名古屋大学の北山陽子さんが，僅か30代の若さでお亡くなりになりました。KaiCの機能を長年一緒に研究してこられた寺内一姫さんと大川（西脇）妙子さんに，心の籠った哀悼の言葉を寄せていただきました。北山さんは近藤孝男先生の愛弟子で，編集子にとっては彼女の卒論の指導を担当した間柄でもあり，また，その後は共同研究者として，尊敬すべき後輩でありました。独特の空気感をまとい，厳しさとやさしさを兼ね備えた彼女のことは決して忘れません。心よりご冥福をお祈りいたします。

■前号に掲載すべきだった昨年度時間生物学会奨励賞の中道先生と牛島先生の受賞記念エッセイ，こちらの不手際で遅くなってしまいましたが，素晴らしい概説をお寄せいただきました。ともに硬派な，真摯な体験談となっており，先生方のお人柄とともに得るところが多く，また，若手の方々には励みになる文章だと思います。ますますのご活躍を期待しております。

■今回は植物の光周性の分子機構に関わる総説をもう一篇，早間先生にご寄稿いただきました。広範なこの分野の進捗状況を要領よく纏めてくださっており，中道先生の受賞論文と併せてお読みいただくことで，進展著しい植物の概日リズム研究の奥行と面白さを存分に味わっていただけることと思います。また，柏木先生，林先生ほかには，レム・ノンレム睡眠と覚醒の制御機構に関して，最近の知見をご紹介いただきました。睡眠研究の進展の現状と課題を手際よくまとめていただいており，専門外の方にもとても勉強になる内容かと存じます。

■さらに今号は，（若手による）リレーエッセイを掲載しています。若手の先生の間で次号の執筆者を指名して繋いでもらう，というコーナーです。元々は一昨年，伊藤浩史先生に書いていただいたエッセイから企画されていたものでしたが，その後続かずにおりました。伊藤浩史さんの御指名により，伊藤照悟さん自らの時間生物学体験をユーモアを交えつつ，軽妙かつ味わいのあるエッセイを寄せていただきました。ぜひお楽しみください。

■海外の留学体験記として，伊藤太一さんにRavi Allada研に留学していた際のエピソードをご紹介いただきました。これまた期待を裏切らないユーモアたっぷりの体験記で，ワクワクしながら拝読しました。さらなるご活躍を期待いたします。

■今号の表紙は，メディアアートの世界で数々の重要な仕事をされてきた重鎮，安斎利洋さんに，まさに「時間」に関するダイナミックな写真作品をご提供いただきました。安斎さんは，自己組織化や質感，形態形成，進化と言った，生命論にも大きく関連するテーマを追究しておられるアーティストです。生物学者から見ても，共感や驚きに満ちた展開を多く手掛けておられますので，ホームページや文章を併せてご覧いただければと存じます。

■さて，今号を持ちまして，6年に亘りました編集委員長の任を退きます。とても貴重な体験で，編集を通じて様々な先生方やアーティストの方々と作業を共にできたことは誠にありがたく，関係者の皆様，そして読者の皆様に感謝申し上げます。とはいえ，毎号発行が遅れたり，多々不手際があったりして，執筆者の先生方，読者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。バランス感覚に秀で，雑誌のレベルを高められた全編集長の富岡先生の偉大さを改めて思い知らされる毎号の編纂でした。後任は，誰もが認める有能なる重吉康史先生にお任せします。さらなる学会誌の飛躍を祈念するとともに，皆々様にはますますのご指導ご鞭撻，ご愛顧のほど，よろしくお願い申し上げます（岩崎秀雄）。

時間生物学　Vol. 22, No. 2（2016）　　平成28年11月10日発行

発行：日本時間生物学会（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html）
（事務局）〒464-8601　名古屋市瑞穂区田辺通3-1
名古屋市立大学大学院薬学研究科・薬学部
神経薬理学分野　粂和彦研究室内
Tel/Fax：052-836-3676
（編集局）〒162-8480　東京都新宿区若松町2-2
早稲田大学先端生命医科学研究センター
（TWIns）1F　岩崎秀雄研究室内
Tel：03-5369-7317　Email：hideo-iwasaki@waseda.jp
（印刷所）名古屋大学消費生活協同組合　印刷・情報サービス部